

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 39

2021年9月28日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

白梅での取組について

白梅学園高等学校校長

武内 彰

小平西地区の皆様には、日頃より本校生徒たちが大変お世話になりましてありがとうございます。紙幅を頂戴して、私自身のことと本校での取組について述べさせていただきます。

私自身は過去20年間、副校長・校長あるいは教育行政管理職として都立高校の学校経営に携わり、微力を尽くしてまいりました。この3月に定年退職し、ご縁があって、4月から現任校にお世話になることとなりました。私事ですが、本校の目の前にある上水公園は3人の我が子たちが幼い頃、よく遊びに連れてきた思い出深い場所です。時には玉川上水にかかる橋のたもとで息子とともにカブトムシを捕まえた記憶もございます。

本校に着任してから5か月余りが経ちましたが、生徒たちは落ち着いており、意欲的に学業と特別活動(学校行事や部活動など)に取り組んでくれています。教職員も生徒への教育的愛情が深く、生徒たちに寄り添ってその自立を支援してくれています。このような学校文化・風土の中で、私が取り組んでいるのは「生徒間の対話のある授業場面」を創って、集団での学びに意義を見出し、より主体的に学びに向かう生徒たちを育てていくことです。少しずつではありますが、教員の中にはそうした実践に取り組んでくれる人たちが増えてきています。そうした授業の意義について生徒たちも肯定的に捉えてくれており、これからの時代に求められる思考力等を身に付けてくれるものと感じています。

同時に、生徒たちには学校行事や部活動等にも意欲的に取り組んでもらい、共通の目標に向かって協働していく中で、他を思いやる気持ちやあきらめずに取り組んでいく姿勢などを培ってほしいと願っています。実際にそうした生徒たちが多く、頼もしく感じております。

今後も地域の皆様に支えられながら、本校生徒たちが自らの能力を発揮して社会貢献できる女性へと育てられるように学校運営に尽力してまいります。

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

白梅学園大学発達・教育相談室

ご存じですか

沼田あや子

白梅学園大学のなかに、地域に開かれた相談室があるのをご存知でしょうか？2010年7月に開室された「白梅学園大学 発達・教育相談室」は、白梅学園大学の西門入ってすぐ左手の幼稚園2階の地域交流研究センター棟の中にあります。乳幼児から思春期まで、幅広い年齢のお子さんの困り事について、保護者の方や先生たちと一緒に考える相談室です。

近年、育児支援の選択肢が多くなってとても助かることが多いのですが、選択しきれず悩む親御さんもいらっしゃいます。お子さんのことで、重要な決断をするのは大変なプレッシャーがかかります。「子どもの責任を背負うのが親だ」と思ってしまいがちですが、その荷物を少し分けてください…という気持ちで、お話をお伺いしています。

昨年からのコロナ禍で、子どもたちへの直接の影響もありますが、大人たちの不安や余裕のなさの影響も小さ

くないと感じています。昔のように「将来役に立つから学校へ行って勉強なさい」と、大人たちも自信をもって言えない時代なのではないでしょうか。世の中の価値観が大きく変わってきていることを子どもたちが敏感に感じ取っているのかもしれない。

そんな子どもたちの声を聴き、応答していくことが私たちにできることと考えます。そして、それは個人ではなかなかできることではありません。先行きが不透明な時代だからこそ、一人ではなく、隣にいる人、斜めにいる人とつながりあって、小さな共同体をつくることができたなら、安心して子どもたちを支えられると思うのです。白梅の相談室では「地域対話型発達相談」というコンセプトを立ち上げて、地域のひとたちや機関と連携して相互理解を進め、暮らしやすい地域作りに大学として貢献したいと考えています。地域の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

床屋さんから見た地域

— 障がい者施設出張カットの体験から —

栗田正夫

ご来店された瀧口先生より、ひょんなことから「床屋さんから見た地域への係わり方は？」と質問を受けました。今までそんなに深く考えたことは正直ありませんでしたが、自分なりにまとめてみる機会を頂きましたので綴ってみます。小平という場所柄、親の代より障がいを持っ

たお子様がお父さんお母さんと来店されます、又長く市内の障がい者施設に出張をしてカットを行っています。

自分達は障がいのある方達と接する勉強をした事も無い床屋さんですので、日々手探りでどの様にしたら髪の毛を切らしてもらえるのかを考えながら施術をしてお

ます。小さい時から高校生、大人になるまで、何人もの障がいを持った方々を施術させて頂いた経験です。

子供の時、髪を切る事が好きな子って多くはいませんよね。「ジッとしていないと切れちゃうよ」と床屋さんに脅かされ、仕方なく椅子に座っている子が大半です。慣れてくれるまで、何年も時はかかりますが、父母の方と相談しながら辛抱強く施術を行っていますと、本人が心を開いてくれるのかな？ 苦手な床屋さんなのに不思議な位大人になって髪を切らしてくれるようになってきます。

この子、髪の毛切れる様になるだろうか、大人になって他所の床屋さんに行っても大丈夫になってくれるまでになるだろうかと思う子供さん達が、各々障がいの度合いも成長する時間も違いますが、心が通じて(勝手に思っています)床屋さんを嫌がらず好きになってくれた時、本当に自分達の嬉しさ、喜びとなります。

父母の方からは「床屋さんの腕だよ」などと言われますが、腕ではありません。工夫して考えながら施術をしますし、これがベストでもありません。専門の勉強をした訳でも無くお父さんお母さんから教わりながらやっています。

なによりもご本人が理解され努力をされ、動いてしまう体をコントロールして床屋さんを受け入れて下さり施術させてくれる姿勢に感動をさせていただきます。

自分達は、子供さんの目線に、立場になって仕事をします、上から目線？はノーです、なかなかお話しが出来ない子供さんでも常に語り掛け、子どもさんのペースに合わせています、当たり前の事かもしれませんが常に心がけて施術をしていく事で本人との良い関係が築かれていくのでしょうか？勝手に解釈をしています。

障がいを持った子供さんを施術する床屋さんが少ないのか、他店では断られたとか、カットして貰えないからママさん床屋をしていましたと言って当店へ来店される方もいらっしゃいますが、健常者、障がい者と分け隔てしてしまう風潮がまだあると思うと寂しいですね。

パラリンピックが開催され選手の活躍を見て、生きる姿勢、生き様っていうのですか、本当に感動しました。自分達も少しでも近づいていけると良いかなと考える次第です。

白梅子育て広場

7月あそぼうかい報告

大羽ゆみ(子ども学科3年)

夏とはいえ最近雨が続く、少し肌寒さを感じますが皆様はいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスにも負けないよう体調に気を付けたいものですね。

さて、私たち白梅子育て広場は日頃より、子育て世帯の方々や地域に住む方々へ向けて世代間交流を主に主催しております。

今回は7月10日対面にて、「あそぼうかい世代間交流広場」を開催しました。対面で行うまでの道のりはとても長いものでした。今回の7月あそぼうかいについて、これまでを少し振り返りながらお話をさせていただきます。新型コロナウイルスが流行し猛威をふるったこの2年間は、対面で行うことが難しく学生たちが試行錯誤の上、リモート形式(zoom)を取り行ってきました。5月あそぼうかいが行えなくなりやつのことでこぎつけた11月あそぼうかい、1年生と2年生の積極性とアイデア力に救われ

皆で作った1月あそぼうかい。11月あそぼうかいの写真があまりないのが少し残念ではありますが、この写真は1月あそぼうかいの作業風景です。



テーマは「春のおかしな遊園地」。本番に向けてあそびコーナーの学生たちが試行錯誤したものです。そのような流れの中での対面による「7月あそぼうかい」。3年生以上にとっては久しぶり、下級生にとっては初めての経験でした。リモート形式とは実施の仕方は異なるものの、これまでに経験してきたことを踏まえて協力しながら無事に終えることができました。

ここからは「7月あそぼうかい」について話していきたいと思います。

一番初めに参加者さんとお会いする「受付コーナー」では、参加者さん自身の名前を名札に書きながら学生と話をし交流します。あそぼうかいの顔とも言えます。今回のテーマが「星に願いを☆七夕縁日」であるため、受付コーナーの装飾も流れ星や提灯をモチーフにしています。下にあるものがその時の写真です。



参加者さんの方々と一緒に手作りする「制作コーナー」では、夏らしいかき氷を作りました。器にペンを使って好きな絵を描いて、本物の氷に見立てたティッシュペーパーと綿を器に入れて、シロップをかければ自分だけのオリジナルかき氷の完成！下の写真は、いちご味のかき氷とリハーサル時に撮った学生たちの作業風景です。どのコーナーもあそぼうかい本番前に必ずリハーサルをします。久々のリハーサルだったため、私を含め上級生はとても楽しかった時間でした。1・2年生は初めてで、ドキドキ。

ほっと息をついてゆったりと休むことができる「ほっとスペース」では、一昨年の「mini あそぼうかい」で使っていた手作りのコンロを使って焼きそば作りのおまごをしました。その他にも織姫と彦星が入ったひんやりとするウォーターマットのようなもの、プラネタリウムなどがありまし

た。これらの様子を写したのが4枚の写真です。リハーサルの際に撮られたものです。

そして「ほっとスペース」には授乳スペースもあります。授乳スペースはどの企画の際にも設置されているので、いつでもご利用いただけます。ぜひご利用ください。

学生が考えた遊びで参加者さんと一緒に遊ぶ「あそびコーナー」では、縁日らしい輪投げ、星を探す新聞紙プール、お土産屋さんがありました。輪投げは宇宙人がモチーフで、ある一年生がイメージして描いてくれました。新聞紙プールは、とにかく新聞を割く事前準備が大変でした。プールに新聞紙を入れすぎると星を探すのが難しくなるため、適切な量をリハーサル時に確認しました。お土産屋さんには画用紙で作った星型のプレスレット。星を探せたらもらうことができるプレゼントです。

これらの遊びを終えて最後にあるのは、「おわりのつどい」です。学生の一人ひとりが役をもち、放課後劇の練習をしていました。今回は盆踊りをイメージしています。歌に合わせて盆踊り。夏らしさが感じられ、最後の締めには相応しい雰囲気でした。

ここまでが、7月あそぼうかいの話です。まだまだ話したりませんが、いかがでしたでしょうか。次のあそぼうかいへお越しいただいた際にでも、学生に話を聞いてみてください。もっともっと楽しい話が聞けることと思います。白梅学園大学にて、学生一同お待ちしております！



文部科学大臣賞受賞

清修中学校・中高一貫部の鉄道模型

白梅学園清修中学校・中高一貫部

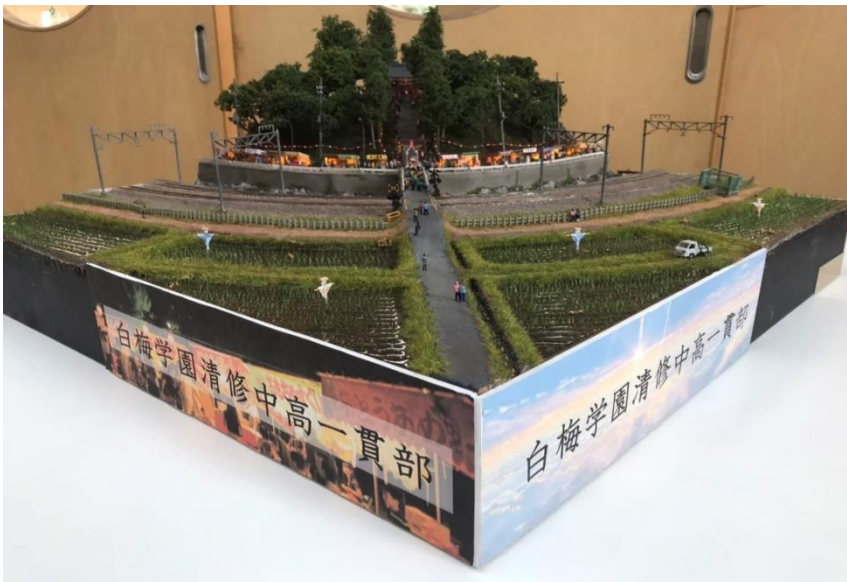
鉄道模型デザイン班顧問 中澤 亜紀

今年、中学一年生から高校二年生総勢三十九名が一緒に活動しています。毎年夏に行われる“全国高等学校鉄道模型コンテスト”に参加しています。今年から九州大会も開催され、中学二・三年生が『カナディ

アンロッキー』をモチーフにした作品を出展し、最優秀賞を受賞。新宿住友ビル三角広場で実施された全国大会では、線路と周辺の風景をジオラマで再現する「モジュール部門」に高校二年生が、「コロナ禍で制限のある

中、田舎のお祭りに行った気分を私たちの模型で味わってもらいたい」と制作した水田が広がり屋台が立ち並ぶ作品を出展し、文部科学大臣賞（全国一位）を受賞。参加者からは、日本のなつかしい里山の風景が広がっているとの感想もいただきました。

また、パネルの広さが畳一畳分となる「一畳レイアウト部門」では、高校一年生がジブリ作品『紅の豚』のシーンを忠実に再現した作品を出展し最優秀賞を受賞しました。私たちの青春がたくさん詰まった作品をぜひご覧ください。



第40回懇談会に参加して

権田倫子

今回の懇談会は40回と知り、10年の時の流れを思い起こしております。足立さんから声をかけられ、近くに住みながら、ご縁のなかった大学で、地域の情報を耳にすることが出来ると、参加を楽しみにして参りました。コロナの為、大学構内での集まりは否となりましたが、滝口先生の御蔭で、オンラインでの開催となり、すごい時

代になったなあと思いつつ、これからの社会は一体どちらの方向に向かっていくのかと、疑心暗鬼にも？

オリンピック開催問題についても然り、混沌とした閉塞感を感じながら過ごしております。今回のテーマ「ヤングケアラー」について、以前大学の懇談会で、映画を見る機会がありました。其の時は主人公の青年がお年

寄りとの関わりをどうして、成長する姿の内容であったと記憶していましたが、今回、森山:日向氏のお話を伺い現状の厳しさを知る機会となりました。最近新聞で、ヤングケアラーに関する記事や投稿を目に致します。

大学の家族地域支援学科では、既に5~6年前南魚沼市や藤沢市における調査を、小平市は2017年度市内の公立小中学校教師へのアンケート調査を行われた結果をお聞きました。学校では家庭内の問題として見過ごされやすく、子ども自身も、周囲に知られたくないなど、誰にも相談できない状況が多々ある事を知りました。小平市ティーンズ相談室「ユツカ」が開設されたとの事ですが、相識室迄行くのは、なかなか敷居の高い事でしょう?スクールカウンセラーとの連携が大切ですよ!!

私の仕事は主に産後のママや、乳幼児期のお子さん達が対象ですので、今まで気が付かないで、見過ごして来てしまいましたが、思春期の子ども達に関わる仲間への、情報提供も大切ですね。自分自身が過ごして来た昭和30年代を振り返ってみますと、父が早く病

死した為、母は仕事、兄弟5人の末子の私の小学校時代は、近所の子どもの世話等当たり前、中学校からは、学校帰りに八百屋さんによって、買い物、夕食準備をする事は日常的な事でした。今振り返って考えますと、其の経験をどうして、生活力が身についたとも考えますが、60数年前と現代の社会ではすっかり変わり、新自由主義による経済格差が、社会的弱者の中でも、特に物が言えないこどもに表れる事を、あらためて考える機会となりました。

子どもの権利条約が批准されていますが、具体的な動きはなかなか見えて来ません。先日の朝日新聞の「人」欄に母子手帳への子ども権利条約の記載を提案し、行政に働きかけている、女子中学生の事が掲載されていました。若い感性は素敵だと思いつつ、行政の窓口は、母子手帳を交付、内容説明の時には、これから親になる人に伝える事も、大切な事ではないかと考えております

NPO 保育福祉子育てフォーラムからのご挨拶

西ネットの皆さん、読者の皆さん

こんにちは、初めまして。「NPO 保育福祉子育てフォーラム(略称子育てフォーラム)」です。東京国際福祉専門学校(略称国際福祉専門学校)の教職員の労働組合のメンバーが中心となって、立ち上げられました。2年前、職場の民主化を求めて組合を立ち上げたら、学校を廃校にして解雇にされ、学校もろとも排除されました。今も解雇撤回を求めて裁判や運動で闘っています。

私たちは保育士養成に携わった経験を踏まえ、できることがないかと考えて、皆さんにもよく知られている金田利子さんの生涯発達研究所を事務所にして、保育、福祉、子育て等に関心のある一人一人と交流や対話をする中で、新しい保育者論を創造する活動を進めています。

フォーラムのメンバーの中には教育・保育・看護・福祉などのエキスパートも集っています。直近では、チラシにある「保育白書で学ぶ会」を開催します。是非ご参加ください。

地域の皆さんに立ち寄って頂いて、世間話ができる場でありたいと願っています。コロナ禍だからこそ、つながりが欠かせないと私たちは考えています。皆さんのお知恵を力にさせていただいたら、幸いです。これからも、よろしく願いいたします。

保育白書で学ぶ会

保育者も保護者も、子どもや保育についてもっとゆっくり話したい、でも、体制や環境に余裕がない、人間関係が大変、休みが取れない、更にコロナで健康と安全を守るだけでも精一杯...その問題の背景には、必ず制度や、社会の仕組みがあります。

『保育白書』(全保連・保育研究所編)は用語の意味や最新の状況、保育の条件改善に向け、どう行動するか、確かな情報と視点を手掛かりになります。

コロナで休園になったとき、自分の給料がどうなるか、去年の読書会で学んだ知識を元に園と話し、満額賃金が保障されたという声も聞かれています。

日時：2021年10月3日(日) 17:00~19:00

場所：フォーラム事務所(東京都小平市小川町1-741-132武蔵野工房101)

リモート (Zoom) 参加も可能です!

内容：著者3人から内容の紹介

参加者の関心に応じた箇所を読み合わせ・討議

備考：フォーラムにご連絡いただければ白書は割引でお買い求めいただけます

参加申し込み先
NPO保育福祉子育てフォーラム
e-mail: h.f.k.forum@gmail.com
ホームページ: <https://hfkforum.wixsite.com/oursite>



子育てフォーラム ホームページ
<https://hfkforum.wixsite.com/oursite>

朝鮮幼稚園の幼保無償化

107万人署名の大きな成果みられる！

—但し、新たな課題在い—市町村の協力が課題、小平市も—

金田利子

西ネットの皆さん、西ネットには世界に一つしかない朝鮮大学校があります。私はそこで「保育原理」を非常勤講師として担当してもう17年目になります。そういう関係から色々な相談を受けることがあります。表題のこともその一つです。そこから瀧口先生にはもちろん、当時白梅学園大学の学長の近藤先生や前学長の汐見先生にも繋がりを付けて、この問題に取り組んできました。親愛なる西ネットの皆さんと是非シェアしたく一筆させていただくことにしました。もっと早く一緒に活動すべきだったと反省しつつですが、特に小平市での活動が不可欠な課題も目の前に迫っています。よろしくお願ひ致します。

以下に成果の転移について、この運動を中心に進めてこられたお一人である任京河氏(元朝鮮大学校教員・現朝鮮総連)のまとめを一部転載します。

「今年4月より、政府は幼保無償化から除外され施設を利用する保護者への代替的支援策としまして、地域における小学校就学前の子どもを対象とした多様な集団活動事業の利用支援事業」を実施することを決定しました。この支援制度は幼稚園類似施設を利用する保護者を対象に当初立案されたものですが、各種学校の外国人幼稚園も対象に含まれることになりました。各種学校幼稚園が含まれるようになった要因としましては、まぎれもなくこれまでの運動があったからに他ならないと言えます。私たちの運動を多くの日本の支援者たちのご協力でここまで来られたと思います。新支援制度は、

保護者に月額2万円を上限に補助がなされます。この支援金は、国、都道府県、市区町が各3分の1ずつ負担するものですが、国の補助金が朝鮮学校やその保護者に支給されることはこれまで一度もなかったことで、歴史的に初めてのこととして私たちはその意義は決して小さくないと考えております。ただ、新支援制度の実施のためには保護者が居住する市区町の手上げが必要でして、残念ながら手上げを渋る自治体もあり、現在引き続き自治体への要請を行っている所です。(朝鮮幼稚園保護者の居住市区町の数約80です。)」(アンダーライン金田)

さて、小平市には朝鮮系の幼稚園はありませんが、立川の園に通っている子どもが2名います。小平市もまだ事業の実施を決めておらず、この二人は折角の無償化の支援が受けられていないとのこと。9月の市議会に通らないとこの春からさかのぼっての費用もこれからのものも出ないこととなります。小平市議会に働きかけそのことの実現に努力しなければならないと思います。皆様の一層のご協力を。その後、知り合いの議員と通じて市長に働きかけてもらいました。趣旨には賛成だが事務の受け皿がないという事で、保留になっているようですが、市でも党派を超えて取り組んで行ける体制はできてきました。事務体制は言い訳で、それは付けようとすれば付けられる課題と思われまので、署名他、色々な知恵も含めて西ネットの皆さんのご協力をと願っています。

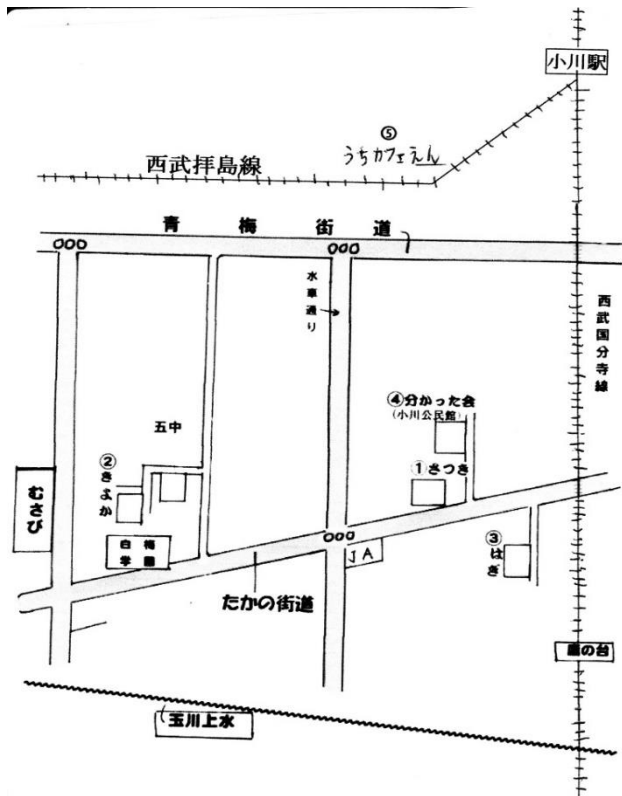
さわやかな「9月」をさわやかに迎えるために8月を振り返って

- ◆ さわやかに9月を迎えられるには8月の痛み胸に刻まん
 - ◆ 発効*後初めて迎える原爆日 署名・批准を避けるこの国 (*「核兵器禁止条約」の発効)
 - ◆ 高齢になればなるほど医者離れ 医療費値上げは国のパワハラ
 - ◆ 憲法下「民は生かさず殺さず」か 年金下がり医療費上がる

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております！ (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中)
問い合わせ：渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 11:30～15:30 (移転先検討中)
問い合わせ：石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00
問い合わせ：萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無料学習教室**
毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館)
*コロナ禍のため現在は日曜日 14:00～16:00
問い合わせ：奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェェん」(小川西町)**
毎週月・水 13:00～15:30分
問い合わせ：伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



イベントの予定

(コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です)

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会： 10月12日(火) 18時～
- 地域世話人会： 11月09日(火) 18時～
- 大学世話人会： 11月30日(火) 18時～
- 大学世話人会： 12月07日(火) 18時～
- 地域懇談会： 12月14日(火) 18時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昴哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記：「小平西のきずな」も今回で39号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、この4月から10年目に入っています。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。